

西尾城跡（第13次調査）の発掘調査成果

～西尾城米蔵跡の発見～

西尾市教育委員会文化財課

調査期間 令和4年7月26日～8月12日
調査場所 錦城町（西尾小学校体育館横）
調査原因 災害用トイレ建設に伴う緊急発掘調査
調査面積 80㎡

調査の経緯

災害用トイレ建設工事に先立って、発掘調査を行うこととなりました。

調査地点は西尾城東之丸米蔵跡にあたり、平成2年の西尾小学校体育館建設に伴う発掘調査では、米蔵や長蔵基壇など絵図に描かれた施設が確認されています。

調査の概要

江戸時代前期の区画溝

調査区の南側で1条の溝状遺構が見つかりました。溝1は幅0.6m、深さ0.15mで溝2は幅1.4m、深さ1mで断面形は箱型を呈しています。溝3は幅0.9m、深さ0.25mで断面形はU字形を呈しています。溝3は平成2年調査区で見つかった遺構と同一と考えられます。いずれも出土遺物から江戸時代前期に埋没したと推定されます。

江戸時代前期に描かれた「正保城絵図」（国立公文書館蔵）には本調査地点付近は「侍屋敷」と描かれていることから武家屋敷に関連した遺構の可能性がります。

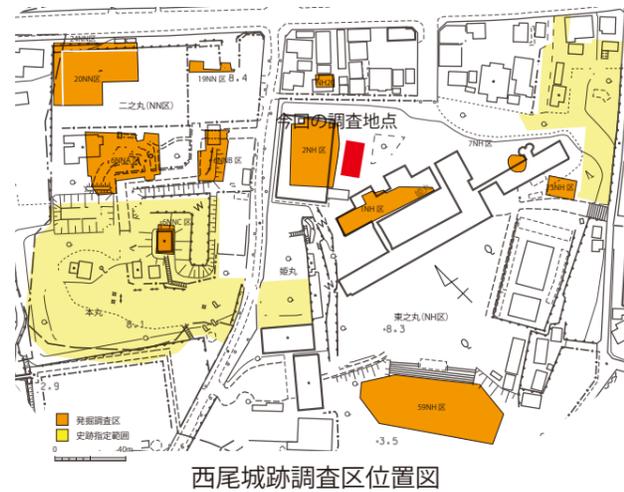
米蔵

調査区北側では南北5.1m、東西3.6mの大型土坑が見つかりました。遺構内には深さ約1mにわたり川砂が埋められており、根石と推定される石材が7ヶ所で確認されました。

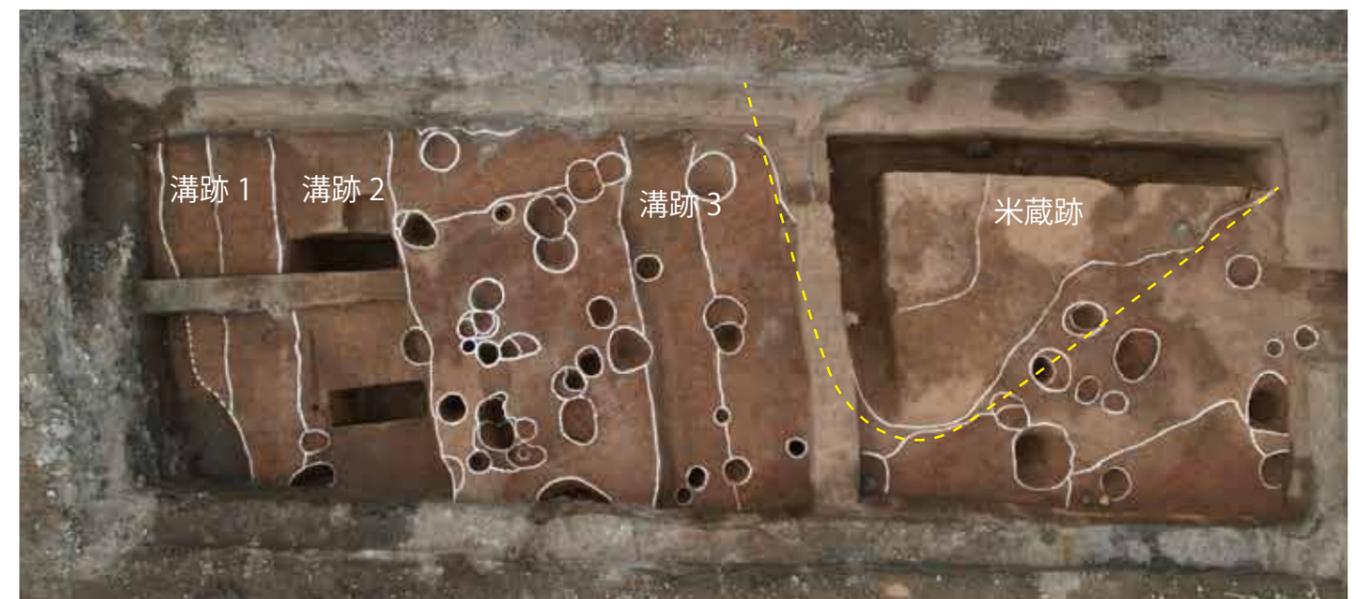
体育館地点での調査でも同様の遺構が確認されていて、本遺構は米蔵跡と想定されます。川砂は蔵の地下の通気性をよくし、湿気を取り除くために敷かれたと考えられます。複数の礎石の配列が認められることから、米蔵は何度が建て替え直されたと推察されます。

調査のまとめ

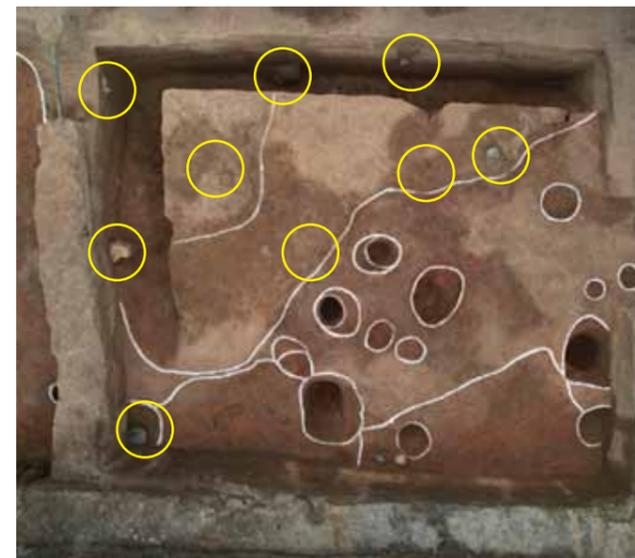
今回の調査では絵図に描かれた侍屋敷や米蔵に関連した遺構を検出することができ、西尾城の実態を知る貴重な成果を得ることができました。



出土品（上：立葵紋軒丸瓦／下：桔梗紋軒丸瓦）



調査区全景（右が北）



米蔵跡（右が北）

黄色丸が根石。写真撮影後に確認された遺構もあります。



区画溝（南から撮影）

侍屋敷に関連するであろう並行した3条の溝状遺構が見つかりました。



- ①「正保城絵図」（江戸時代前期／井伊氏城主時代）
- ②「西尾城図」（江戸時代中期／三浦氏城主時代）
- ③「三州幡豆郡吉良庄西尾城之図」（江戸時代末／大給松平氏城主時代）

①では本調査地点に侍屋敷が配置されています。②・③では藩の米を蓄えるための長蔵が置かれ、柵や長蔵で囲われている内部は米を出し入れするための空地であったようです。